

50期卒業おめでとう

新聞 鹿児島中央

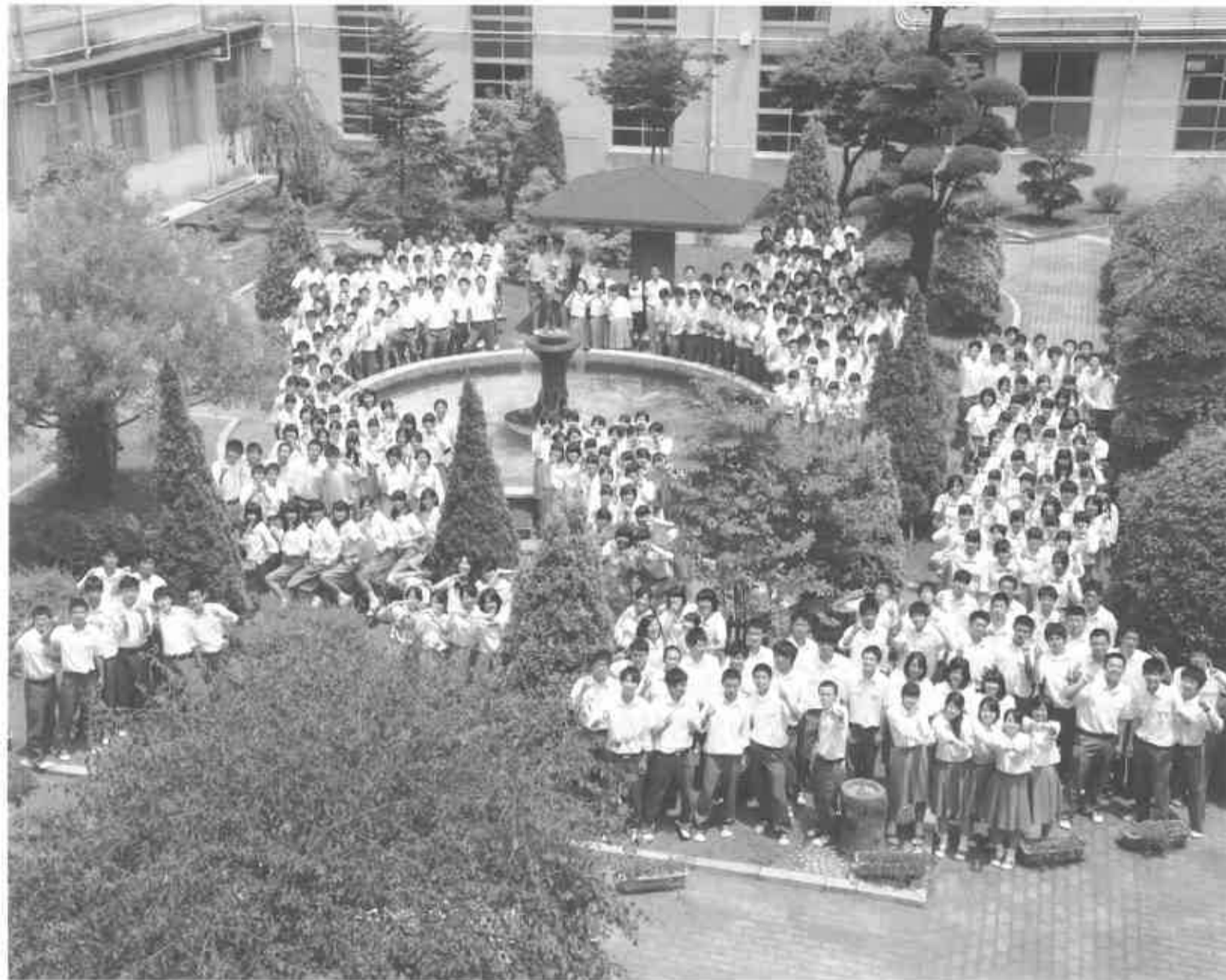
発行所
鹿児島中央高等学校
新聞委員会
鹿児島市加治屋町10-1

印刷所
鹿児島市上荒田町55-1
俵朝日印刷



今号の紙面

- 2面・3年生クラスの思い出
- 3面・部活動紹介
・きらり中央星 他
- 4面・中央高校交流会議
・弁論大会 他



強みを見つけ

強みを伸ばす

校長 杉元 羊一

五十期の皆さん、卒業おめでとう。皆さんは昨年度、中堅学年として創立五十周年の各種記念行事を盛り上げてくれました。また、今年度は最高学年として学校行事や学業、部活動、生徒会活動等において、その責任を立派に果たしました。特筆すべきは、二年連続体育祭の完全制覇(競技・応援)でしょう。皆さんの本校への多大な貢献に心から敬意を表します。

昨年十月の南日本新聞に掲載された。題目は「私のトランジット」。高校生活や大学生活を人のトランジット(目的地への経由地点)と位置付け、「栄養を蓄え、目指す場所を再確認するにはもってこいの場」や「目的地までの道のりが自由」と捉え、「いつか目的地にたどり着くのだろう」と結んでいます。私のこれまでの人生を振り返ってみても共感できる内容です。

現代は、人生八十年の時代です。皆さんの卒業は、まだ人生の第一コーナーに差し掛かったに過ぎません。大切なことは、選んだ(選ばれる)を得なかった罪ではなく、その罪の向こうに自ら築いていく道程です。その道程で自分の強みを見つけ、それを伸ばしていけば、また新たな扉が見えてくるのです。人生の扉は一つではないのです。

校歌にある珊瑚樹の強みは、芽吹く力や小さな白い花に深紅色の実という美しさだけでなく、排気ガスや火にも強いという特性にあります。幹線道路に囲まれた街中の新設校の生垣として植えられた理由が分かるようです。

昨年六月、中庭に一本の珊瑚樹を植えました。将来、本校の「校木」として成長することを願っています。また、皆さん自身の記念樹としても、その成長を見守ってください。

広い視野で

学年主任 下津 健雅

「先生になった理由を教えてください。」

よく生徒から質問される。多くの先生方にとっては当たり前ですが、私にはその度に答えに困ってしまっています。高校時代いい加減に過ぎた。私は、大学も入学できなかった。夢など持っていなかった。そんな調子でいた。大学でも身が入った勉強もしてこなかった。まして教師になろうなどとは夢にも思っていなかった。今になって、もう少し勉強をしておけばよかったと後悔だらけ。

この春、希望の進路に進めた者もいるが、中には不意な結果に終わった者もいるかもしれない。しかし、次の場所・ステージこそ本場の勝負の場だと思おう。昨年度の国内体験学習の大学体感プログラムで皆さんに指導してくれた一人の学生に、大学での思い出を尋ねたところ、「ポランテアで海外に行き、学校設立の活動を手伝った。」と堂々と胸を張って答えてくれた。何とも頼もしい若者と感心した。

また、昨年、教え子と久しぶりに会った。高校時代は少々やんちゃで、第一志望ではない大学に入学した生徒だった。彼は長期休みを利用して東南アジアでヒッチハイクをしてみたそうだ。少々英語ができなくても、身振り手振りで何とか対応でき、楽しく過ごせた、と満面の笑みで話してくれた。青春の思い出(今時この言葉は死語なのかもしれないが)と羨ましく思った。

卒業生の皆さんも、ぜひ視野を広げて多くのことを経験してほしい。そして、明るい未来を切り拓いて進んでほしいと願っている。

ところで、冒頭の質問の答えは「子どもが好きだから」という、いかにも当たり前の答えで申し訳ない。五十期の皆さんの活躍を期待します。

軌跡と未来

卒業生代表 藤下 尚輝



在校生代表 遠木 園 ひかる



それは、穏やかな春の日のことでした。新たな始まりに不安を抱えた私たちに、あたたかな風が吹き、そっと背中を押してくれました。

あの日から、もう三年の月日が経ちました。三年前と現在の写真を見比べると、みんな現在のほうが随分と凛々とした表情になっています。その表情の裏には、言葉では語りつくせないほどの楽しかった思い出、辛かった思い出が各人にあると思います。幾多の困難を乗り越えて、私たちは今ここにいます。どんな時でも、多くの方々が私たちを支え、正しい道へと導いてくださいました。

しかし、これから私たちはより一層「自立」していかなければなりません。失うことは怖い、選ぶことは怖い。それでも、ありきたりな物語を求めない私たちは、はじまりも終わりもぜんぶ自分たちで決めていくでしょう。変わっていくもの、変わらないもの、答えは一つでなくても良いのだと思います。

驕ることなく、怠ることなく、この先起こることに果敢にチャレンジしていきます。そして、またいつの日か胸を張って、あたたかな風が吹くこの場所に、みんな戻ってきたいと思っています。

三年間、お世話になりました。ありがとうございます。

追うべき背中

先輩方には学校生活の様々な場面でお世話になりました。いつでも頼りになり、私たちに導いてくださる先輩方と関わることで、嬉しく思うと同時に憧れてばかりでした。また、行事の度に五十期生の団結力と行動力を実感させられました。全員が共通の目標をめざし、私にはなかなか踏み出しきれそうにない一歩を勇気に踏み出す先輩方の姿は鹿児島中央高校生の在るべき姿そのものだと思います。せめてもの恩返しとして先輩方が私たちに繋いでくださった伝統を引き継ぎたいです。

この校舎で多くの事を学び体験し、五十期生として共に門をくぐった仲間と感情を共有し、思い出を作ったこと。三年間は、唯一無二の宝物となったのではないのでしょうか。

先輩方は今、私たちが在校生がまだ感じることのできない様々な思いで胸がいっぱいになれていることだと思います。これから新たにめくっていく人生のページページは楽しいことばかりではないはず。迷われた時は三年間の学校生活を思い出して、堂々と前を向き「これから」を歩んでほしいです。

五十期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今まで本当にありがとうございました。

三年一組 クラスの思い出

- ① 前期クラスマッチで、総合優勝したこと。特にサッカーの応援や、バレーボールで盛り上がった。団結して応援したことがとてもよかつた。
- ② 担任の川崎先生が、授業などで和ませようと毎回言う、つまらないけど、笑ってしまいう親父ギャグ。副担任の岡元先生は、穏やかな雰囲気なので、気軽に話しやすい。
- ③ 中央高校は、設備、環境ともに整った、勉強に熱心になれるすばらしい学校です。勉強と部活、頑張ってください！



三年二組 クラスの思い出

- ① 英語担当の西中間先生のストリートすぎる苦言に笑顔で対応する二組。西中間先生のおかげで笑顔のステキな二組になりました。
- ② 竹下先生が数Ⅲの授業で間違えやすいポイントを教える時、間違えるなよと言いつつ板書が間違っていた(笑)。おかげで記憶に残りました。ちなみに竹下先生の口ぐせは「数学はおしゃれだ」です。
- ③ 英語はリーマラと英単語が命。数学は問題数をこなしたもん勝ち。勉強がんばれ。あと部活はやめずにがんばりましょう。



三年三組 クラスの思い出

- ① 体育祭で二年連続優勝。雨が降ってもがんばった。
- ② 遠行のとき、先生が「がんばれ。」と言って、「アメと一箱にかんだあとのガムをつつんだ紙もくれたこと。
- ③ 勉強や部活など学校生活は大変だと思いますが、がんばってください。



三年四組 クラスの思い出

- ① 高校生活最後の体育祭。クラス一丸となって紅軍優勝に貢献。
- ② 体育祭の後に、安留先生方からガリガリ君のごほうびを頂いた。味は、ソーダ味・梨味・ナポリタン味。ソーダ味と梨味は、普通においしく、ナポリタン味は、ナポリタン好きにはたまらない味だった。
- ③ 全ての青春を締め〓以上。



3年生クラスの思い出

- ①クラスでの一番の思い出
- ②担任・副担任の先生のおもしろエピソード
- ③後輩へのメッセージ

三年五組 クラスの思い出

- ① 前期のクラスマッチのとき、クラス一丸となってサッカー優勝を勝ちとったこと。体育祭二連覇を達成したと。
- ② 板木先生の高校時代の武勇伝。西中間先生の受験に関するノウハウと、一回上げてから落とす毒舌。常盤先生の名言集と東郷平八郎への愛。
- ③ 悔いの残らないよう、三年間を充実したものにしてください。勉強がんばれ！日本史は早くからやっていたほうがいいよ！



三年六組 クラスの思い出

- ① 毎週出してくれていた学級通信「みかんたまご」。試験前のコンデイションング術や先生の一言に元気をもらった。また、二月三日の節分には豆まきしてみんなで赤い鬼の箱に豆を投げた。
- ② 北原先生がセンター試験前日にクラス全員に固い石(意志)をくれたこと。お守りになった。
- ③ 三年間という短い高校生活を十分に楽しんで後悔しないようにしてください。



三年七組 クラスの思い出

- ① クラスでの一番の思い出は何といってもバレーボールで男女ともに優勝したクラスマッチです。決勝戦の時間が重なり、女子が終わると全力ダッシュで隣のコートまで応援に向かいました。
- ② 担任の柳田先生は「ギャツ」という乙女な反応を期待して男子が仕込んだ虫のおもちやを、男前にもわじぶかみにしました。副担任の常房先生は、学年集会で自身が紹介した体操をはりきりすぎてズボンが破けていました。二人とも真面目そうにみえて意外と天然な先生方です。
- ③ 先生を信じてついて行けばオールオッケーです。がんばれ！



三年八組 クラスの思い出

- ① やはり体育祭。声をはりあげて応援団と共に仲間を応援し、雨の中泥水をはねあげながらバトンを繋いだ全員リレー、そして空いた時間にコツコツ練習していた長縄跳びや綱引き。クラスの強固な結束を武器にした。
- ② 担任の西先生はとにかく熱い人。その熱さにたじろぐこともあったが、生徒一人一人と真剣に向き合おうとしてくれていたことに誰もが感謝しているだろう。副担任の福留先生は、ベテラン教師としての腕は確かです。生徒のヘッポコ英文もオリジナルを生かすべく日々格闘していただきました。
- ③ クラスの仲間を大切に、教えてくれる先生方を大切に、そばで支えてくれる家族を大切に、そして中央生であるという誇りを持って残りの学校生活を楽しんでほしい。



主張

冬になると、感染症が猛威を振る。特に今年度は、鹿児島県で流行警報が発令されてしまった程にインフルエンザが流行り、高校や大学の受験生をはじめ、数多くの人を悩ませたであろう。

そこで、インフルエンザをはじめとした様々な感染症を予防するのには、使用済みのマスクが机の上に直接置いてあることである。使用済みのマスクの表面に付いている、息を吸うときにマスクがフィルターの役割を担っている、と考えれば至極当然のことであろう。しかしながら、花粉も全く防げないのである。

意外と間違えマスクの使い方

一年四組 田代 敬

統計によると、マスクを正しく使っていない人が実に七割に達している。その結果、菌やウイルスがこびり付いた机を皆が使用することになるのである。個人的に、これが清潔志向の日本人の行動であるとはあまり考えたくない。

他にも例を挙げると、マスクの表裏を逆に着用している。この機会に自身のマスクの正しい使い方を見直し、改めてほしいのだと私は思っている。

書道部 第四十四回 高文連賞

昨年十二月、第四十四回県高校書道展が黎明館にて行われ、六百二十六人の作品の中から高文連賞に選ばれた、書道部二年生の小山莉穂さんと前園奈々帆さんに話を聞いた。

小山さんは「多字数というものを書いていたので、集中力を維持させるのが大変だった。」と、作品を創りあげる上での苦労を語った。前園さんは「力強い書体のクセが抜けず、柔らかく丸みを帯びた字の形を覚えるために鉛筆での練習もした。」と、工夫した練習方法や、「一年生の頃や二年生の初めは、賞をもらうことがあまりなかった。今回、率直な感想を語った。」

男子バスケット九州大会出場!



(藤島 七海)

県新人戦ベスト4に入り、九州大会出場を果たした鹿児島中央高校男子バスケットボール部。そこで、主将の川原悠聖さんにインタビューをさせてもらった。

「ベスト4に入り、どのような気持ちですか。」という質問に対して、「目標がベスト4ではないので、もっとしっかりチームを作って九州大会に臨みたい。」と、さらなる高みを目指していた。

「自分たちのチームが勝つことができた鍵は何ですか。」という質問に対して、「練習から勝ちたいという気持ちを持って、練習したことだ。」と答えた。九州大会は、自分たちができることを出し切った。勝利を収めたい。」と九州大会へ出場する心構え、そして想いを語った。

(慶田 偉)

弓道部

今回は弓道部(男子九人、女子十六人、計二十五人)にお邪魔しました。弓道部は週に五回ほど練習していて、大会が近くなると毎日練習があるそうです。練習場所は屋上であり、夏は暑さに、冬は寒さに耐えながら日々練習を重ねています。

一年生の佐々木陸くんはインタビューしたところ、弓道の魅力について「的が当たった時の喜びと、練習をすればするほど自分の上達が分かること」だと話してくれました。

また、日々の練習では「チーム力を高めることと、試合で集中できるように精神力を鍛えること」を頑張っているそうです。今の目標は「試合で結果を残すこと」だと話してくれました。



(寺地 敬祐)

部活に おじやま!

部は、男女ともにとても仲が良く、とても楽しいと話しています。良い雰囲気です。

(深見 航平)

ソフトテニス部

ソフトテニス部(男子十二人、女子三人、計十五人)にお邪魔しました。ソフトテニス部は、春季大会で結果を残すことができなかつたので、次の大会で結果を残せるように日々の練習に力を入れているようです。

練習では、部員全員が同じ目標に向かって、声出しや精神面の強化を意識しているそうです。

一年生の部員に話を聞かせてもらったところ、ソフトテニス



(大野 朱莉)

写真部 高文連賞 県高校写真展

十二月に行われた県高校写真展で高文連賞を受賞した二年生、吉岡志帆さんと邊木蘭ひかるさんにインタビューを行いました。はじめに高文連賞を受賞した感想を聞きました。

「正直受賞できると思っていなかったから、嬉しかった(吉岡さん)」

「景色よりも人を対象にして撮るのが好きなので、いい表情を撮り逃さないようにした(邊木蘭さん)」

「景色よりも人を対象にして撮るのが好きなので、いい表情を撮り逃さないようにした(邊木蘭さん)」

「景色よりも人を対象にして撮るのが好きなので、いい表情を撮り逃さないようにした(邊木蘭さん)」

「景色よりも人を対象にして撮るのが好きなので、いい表情を撮り逃さないようにした(邊木蘭さん)」

部活! 活躍中!!

各大会での活躍の様子をお伝えします!

「自分たちのチームが勝つことができた鍵は何ですか。」という質問に対して、「練習から勝ちたいという気持ちを持って、練習したことだ。」と答えた。九州大会は、自分たちができることを出し切った。勝利を収めたい。」と九州大会へ出場する心構え、そして想いを語った。

(慶田 偉)



(慶田 偉)

クイズ ?問題? この先生は誰でしょう

今回、我々は「???」先生に直接取材を試みた。授業中、面白い発言で笑わせてくれる、その御方に興味を持っている人も少なくはないだろう。

初めはまともに取り合ってくれなかつたが、我々の熱意に負け、取材に応じてくれた。

最後に、「???」先生に「様々な場面において、やるからには完璧を目指し、アイデアを追求することですかねえ。」と話を聞いた。

最後に、「???」先生に「様々な場面において、やるからには完璧を目指し、アイデアを追求することですかねえ。」と話を聞いた。

最後に、「???」先生に「様々な場面において、やるからには完璧を目指し、アイデアを追求することですかねえ。」と話を聞いた。



(村山 凌太郎)

☆中央星 いろいろ

生徒会役員や、体育祭で緑軍の団長としても活躍した末吉桃佳さんに話を聞いた。

「生徒が主となって動かす」という魅力に惹かれて入ったという生徒会の大変なことは、行事運営の準備やアンケートの集計といった裏方の仕事と話してくれた。生徒会内で互いに協力しあっている。

また、体育祭は本人にとって一番の思い出で、「団長として緑軍全体を盛り上げられるように」

(福村 優里奈)



(福村 優里奈)



農業工学科体験

まず農業工学科の体験学習。薩摩中央高校が得意とする金属加工の技術を学ぶとともに、他校との交流を深めるための、キーホルダー作りから始まった。最初は難しく感じていたが、6校の生徒がお互いに協力することでより良いものを作

CBP

(Central highschools Borderless Project)

～中央高校交流会議～

昨年スタートし、今回で二回目の開催となるCBP(中央高校交流会議)が記念日である二月十日、今回は薩摩中央高校で行われ、本校からは生徒会本部役員から八人が参加した。以下に、参加者からの報告をまとめた。

ることができた。次に、CBPが発足した二月十日を記念して行われる清掃活動などについて話し合いをして他校の活動状況を聞き、得るものがあった。ちなみに本校は学年末審査が終了してから、美化委員特掃班を中心に、他の希望者も募って清掃活動を行う予定だ。最後に、各学校の生徒の携帯電話の利用状況について話し合いをした。話を聞く



学校紹介の様子



参加した生徒会役員

【日程】

1. 開会式
2. 農業工学科体験学習(キーホルダー作成)
3. 昼食・交流会
4. 交流会議Ⅰ
 - ・学校紹介等(「赤い羽根」共同基金の活動結果、地域清掃ボランティア活動計画・実施報告)
 - ・六校生徒会の意見交換会(来年度の活動について)
5. 交流会議Ⅱ
 - ・「携帯電話の利用に関する調査」六校集計発表
 - ・「携帯電話の利用に関する調査」各校発表
 - ・携帯電話の利用に関する六校での取組についての話し合い
 - ・その他
6. 閉会式

今年度も充実した会議であったようだ。来年度は出水中央高校で開催される。(岡本 望)

弁論大会

最優秀賞 一票に想いを

尾崎 美月

二月十二日に校内弁論大会が行われた。学級・学年で選ばれた八名が発表をした。八名はそれぞれ日常で疑問に思ったことや自分に対する問いを語った。中島教頭先生がおっしゃったように、自分に対する問いに真面目に向き合えば向き合うほど疑問はつきない。それを他人に自分の言葉で表現することはさらに難しい。

五十二・六六パーセント。この数字が何を表しているのかわからない。この数字は前回の衆議院選挙の投票率です。日本の有権者数は約一億四千万人。約半数の人々しか投票に行っていないのです。つまり二人に一人は投票に行っていないことになり、しかも選挙権を放棄する有権者の多くが若い世代に固まっています。彼らはなぜ選挙に行かないのでしょうか。

今、私たちの国では若年層の投票率の低下が問題視されています。日本の有権者数は約一億四千万人。約半数の人々しか投票に行っていないのです。つまり二人に一人は投票に行っていないことになり、しかも選挙権を放棄する有権者の多くが若い世代に固まっています。彼らはなぜ選挙に行かないのでしょうか。

若者達は自分たちが豊かに暮らせる可能性をほとんど奪っているのです。今、私たちの国では若年層の投票率の低下が問題視されています。日本の有権者数は約一億四千万人。約半数の人々しか投票に行っていないのです。つまり二人に一人は投票に行っていないことになり、しかも選挙権を放棄する有権者の多くが若い世代に固まっています。彼らはなぜ選挙に行かないのでしょうか。

日本は様々な問題を抱えています。私たち一人一人の意志だけでは何も変えられないような大きな気持ちももててきます。しかし、クリキンデイのように、自分が何をすべきなのか考えることがとても大切なことだと思っています。ただ、「こんなことあったらいいのになあ」「もう一つこうすればいいのになあ」を思っているだけでは何も変わりません。だからこそ、選挙と

このことから政治を行う人々を一滴汲んでは火の上で落ちていきます。他の動物たちがそれをみて「そんなことをして、まだ高校生なのに私たちに難しさを当てるマニフェストを提示します。このため、高齢者の意向に沿った政策に偏り、若者の意向が政策に反映されない可能性があります。このような状況を知らない、政治に無関心なだけ」と

この数年、日本でも「秋入学」を導入しようとする動きがある。世界でも少ない「春入学」の日本が、世界標準に合わせて、国際交流を促進していくことが狙いのようだ。

その中で、今回最優秀賞に輝いたのは一年四組尾崎美月さんだ。演題は「一票に想いを」。彼女は、若年層の選挙の投票率の低下について語った。自分が選挙に行かなくても何も変わらないと思っていることを「ハチドリ」のひとしずくを例に否定した。私たちはまだ選挙権がないが、二十歳を迎えたとときと彼女が語ったことを思い出すと、選挙権を得るためにデモを起す国々もあるから、自分が選挙権を与えられたら選挙で意思表示をしつかりとしたい。

まず、年代別の投票率を紹介いたします。二十代から三十代にかけての若年層の投票率は、三十三パーセントから四十パーセントと非常に低いことがわかります。それと比べて高齢層は七十パーセントを上回るなど高い投票率を誇っています。

では若年層が選挙に行かない理由はなんですか。理由は様々ですが主に「仕事などにより、行く暇がない」「自分一人が投票したところでなにか変わると思えない」「投票する候補者がいない」などです。ここでは「自分一人が投票したことではなにか変わると思えない」という理由に焦点を当ててみましょう。

みなさんは「ハチドリの一とすずく」という話を知っていますか。とても短い話なのでこれを紹介したいと思います。「森が燃えていました。森の生き物たちは我先にと逃げていききました。でもクリキンデイという名のハチドリだけは行ったり来たり、くちばしで水のしずく

を一滴汲んでは火の上で落ちていきます。他の動物たちがそれをみて「そんなことをして、まだ高校生なのに私たちに難しさを当てるマニフェストを提示します。このため、高齢者の意向に沿った政策に偏り、若者の意向が政策に反映されない可能性があります。このような状況を知らない、政治に無関心なだけ」と

結果を聞いたとき、言葉が出ませんでした。自分が最優秀賞をいただけるなんて思ってもいなかったのです。その時はただただ驚きばかりでした。この最優秀賞は自分の力だけでいただくことができたものではないと思っています。この原稿についてアドバイスをしていただいたり、発表のしかたや読み方などについて指導していただいたりなど、多くの人に助けられています。

世界標準という視点だけで、秋入学の導入に賛否を示すのは難しい気がする。今後は、あらゆる視点から、メリット・デメリットを見出し、深く議論を重ねたうえで、秋入学導入の是非を検討していくべきである。(畑添 幹太)

また、今回優秀賞には二年一組白石さんの「命」、一年八組堀ノ内さんの「出来ないことあるか」が選ばれた。どれもすばらしい発表だった。(黒田 友香)

「森が燃えていました。森の生き物たちは我先にと逃げていききました。でもクリキンデイという名のハチドリだけは行ったり来たり、くちばしで水のしずく

「出来ないことあるか」

「命」

「出来ないことあるか」

「命」

「出来ないことあるか」

クイズの答え



正解は、地歴公民科の上ノ園雅夫先生でした。ちなみに、同じ地歴公民科の永盛先生は「塩」という言葉を見ただけで正解されました。恐るべし、地歴公民科の絆。

◆編集後記◆

五十期生を送り、平成二十六年度がいよいよ終わりに近づいている。今年度は、携帯・スマートフォン持込許可制の導入や、三年生の文化祭参加に代表されるように、様々な点でこれまでと変わり、鹿兒島中央高校が半世紀の時を経てまた新たな一歩を踏み出した年であったように思う。自ら考え行動する姿勢がこれまでに求められる。

今年度も、ご協力・ご愛読ありがとうございました。来年度もよろしくお祈りいたします。



平成二十六年度 校内弁論大会結果
最優秀賞 一年四組 尾崎 美月さん
「一票に想いを」
優秀賞 一年八組 堀ノ内里香さん
「出来ないことあるか」
一年一組 白石 早希さん
「命」

平成二十六年度 校内弁論大会結果
最優秀賞 一年四組 尾崎 美月さん
「一票に想いを」
優秀賞 一年八組 堀ノ内里香さん
「出来ないことあるか」
一年一組 白石 早希さん
「命」